

# 建築もサッカーも、どちらも本業 優勝を目指し、エキサイティングな ゲームで福島の元気を全国へ発信!

小学生の頃から自他ともに認めるサッカー少年。1995年に開催された福島県には選手として出場。福島ユナイテッドFCの前身「FCペラーダ福島」で30歳までプレーした鈴木勇人さん。新会社株式会社AC福島ユナイテッドを立ち上げ、代表取締役役に就任した1カ月後に東日本大震災と東京電力福島第一原発事故に見舞われました。存続が否かで揺れた時期もありました。それでも鈴木さんは「スポーツも建築も夢と希望を届けるもの。どちらも本業」と選手たちと「丸」となって挑戦し続け、2013年11月、念願のJ3参入が決定。今年3月から福島県にとって初のJリーグ戦がスタートしました。今シーズンをかける思いを伺いました。



株式会社AC福島ユナイテッド  
代表取締役  
すずき はやと  
鈴木 勇人 さん



**Hayato Suzuki PROFILE**  
1972年福島市生まれ。大学を卒業後、有限会社鈴木設計に入社。2004年、同社代表取締役役に就任。福島ユナイテッドFCの運営を再建するため2011年に新会社「株式会社AC福島ユナイテッド」を福島の経営者らと設立。以後、代表取締役を務める。2013年、ついにJ3参入を果たし地域貢献に寄与したことが評価され第23回東北ニュービジネス大賞奨励賞を受賞した。建築の分野では、福島市飯坂温泉旧堀切邸の再生設計が日本建築士連合会の2012年作品展で優秀賞を受賞している。座右の銘は「心清事達」（心が清らかであれば事は達成できる）。

## 建築もサッカーも どちらも同じ「まちづくり」

2011年3月、炊き出し支援に出掛けたある避難所で小学生に「ユナイテッドなくなっちゃうの？」と聞かれた時のことを鈴木勇人さんは、今も忘れることはありません。福島ユナイテッドFC（以下、福島U）の運営会社として「辞めるのも

勇気ある決断ではないか」という意見も出ていた時のことです。「福島の子どもたちが希望を見い出せない状況にある時に、われわれ大人まで諦めてはいけないと思い、福島Uをこれまで以上に地域に必要とされるクラブに育てて行こう」と心に決めました。本業の建築でまちの復旧復興に全力を挙げながら、サッカーでまちを元気にしたいと多忙な毎日を送る鈴木

木さんは「建築もサッカーもまちづくり。僕の役目は、ベクトルを同じにして一つのプロジェクトを良い方向に導くこと。どちらも本業です」と言い切ります。勝利をつかみ取るために鈴木さんは、運営会社と選手たちの事務所を一つにしたり、試合に向かう選手一人一人と握手をして励ましたり、試合のたびにサポーターの皆さんへ感謝の気持ちを伝えたりしながら進むべき方向を照らし続けました。「苦しいときこそ良いイメージが大事です。僕は、大勢のサポーターと優勝を分かち合う瞬間をイメージして、そのために必要なことを考え実行し続けました。諦めなければ必ず道は開けます」

## 福島で初めてのJリーグ開幕 「熱い試合で福島を沸かせたい」

2014年3月、福島県にとって初めてのJリーグが遂に開幕しました。生まれ育った福島市をこよなく愛する鈴木さんは、福島Uの試合会場が福島の魅力と誇りを外に向かつて発信する絶好のチャンスと語りま



1 3月に開幕したJ3。夢の舞台上で奮闘中(写真提供/福島ユナイテッドFC)  
4 雪でグラウンドが使えない日も屋内練習場を確保し、トレーニングを重ねています

す。「観光、物産、人の良さを丸ごと発信できます。ぜひ『福島!』『福島!』と叫びに来てください。アウエーの会場は、避難されている方と福島をつなぐ場所。スタジアムで育まれる連帯感には、必ず復興を牽引する力になります」。固定の練習場、スタジアムの確保など課題も山積していますが、新天地に立った鈴木さんの目に浮かぶのは、サポーターの皆さんと勝利の喜びを分かち合い、次のステージを目指す姿だけだそうです。優勝を目指し、エキサイティングなゲームで福島を沸かせ続けてください。

2 6 選手たちに熱心な指導をする監督・栗原圭介さん

最新試合・チケット情報  
株式会社AC福島ユナイテッド ☎024-573-8203  
ホームページ: <http://fufc.jp/>